

暁木会会員 各位

平成20年3月吉日
暁 木 会
http://www.gyoubokukai.jp

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、このたび暁木会ニュース第11号を発行しました。「同窓会としての存在感や会員の連帯感を強める」必要があるとの意見を踏まえ、今回、内容の充実を図り、従来からの「平成19年度総会のご案内」に加え、母校の状況や第一線での活躍ぶりについて会員諸氏から寄稿していただきました。

今後とも更に充実した内容となるよう取り組む所存ですので、会員の皆様方のなお一層のご協力をお願いします。

なお、初めての試みで不行き届きな点多々あるかと思いますが、ご容赦をお願いしますとともに、ご意見等ございましたら、末尾の連絡先までご連絡下さい。

沖村孝先生・高田至郎先生の最終講義

この度、神戸大学自然科学系先端融合研究環都市安全研究センター教授 沖村孝先生、大学院工学研究科市民工学専攻教授 高田至郎先生におかれましては、平成20年3月31日を以って定年退職されることになりました。神戸大学百年記念館内の六甲ホールにて、平成20年2月5日に沖村先生、2月8日に高田先生の最終講義が、計500名の聴講を得て、開催され、会場は立見が出るほどの熱気でした。最終講義終了後の懇談会においても、会場から多くの方々が溢れ出し、先生の周りには人だかりが絶えませんでした。

【沖村先生の最終講義：斜面防災・減災の過去・現在・未来】

戦後から現代までを5つの世代に区分し、斜面防災研究の進展を説明頂くとともに、「これから解決すべき学術的課題」「斜面を安全に長持ちさせるための課題」「信頼できる避難体制の確立」「共生的安全により備える」について将来に向けた提言を頂いた。懇親会では「私は、誘われれば断りません。赤い火、青い火、大歓迎です」のお言葉が印象的であった。



【高田先生の最終講義：ライフライン地震工学の知的体系と防災活力】

ライフライン地震工学の研究進展の経緯と現在の研究体系について紹介され、ライフラインが地震防災対策に果たす役割について紹介頂いた。また、国内外の地震災害調査や国際活動、卒業生達との思い出についても語られた。懇談会では、地震防災研究活動に今後がかかわって行くことや、本の執筆・趣味にも取り組みたいなどの希望も述べられた。



沖村孝先生・高田至郎先生定年退職記念事業のお知らせ

沖村孝先生、高田至郎先生の定年退職記念事業を下記の通り企画いたしましたのでお知らせ申し上げます。

記

1 事業内容

(1) 記念祝賀会

日 時 平成20年5月17日(土) 受付 午後4時～ 開会 午後5時～

場 所 神戸ポートピアホテル 大輪田の間

神戸市中央区港島中町6丁目10-1 (電話 078-302-1111)

会 費 1万5千円(但し、醸金1口含む: 同伴者1万円)

(2) 記念品贈呈

(3) 記念DVD作成

2 醸金要領

醸金額 1口 5千円

(醸金をいただいた方には、記念DVDを送付させていただきます)

【お問い合わせ先】

神戸大学工学部市民工学事務室内

沖村孝先生・高田至郎先生定年退職記念事業会実行委員会事務局

鳥居宣之(沖村孝先生):

TEL: 078-803-6431、FAX: 078-803-6394

E-mail: ntorii@port.kobe-u.ac.jp

鋤田泰子(高田至郎先生)

TEL: 078-803-6047、FAX: 078-803-6047

E-mail: kuwata@kobe-u.ac.jp

曉木会平成19年度総会の開催について

平成19年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

■日 時 平成20年3月25日(火) 午後6時～午後7時

■場 所 湊川神社 楠公会館

神戸市中央区多聞通3-1-1 TEL: 078-371-0005

(最寄駅は、JR神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅)

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会(午後7時～)を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。なお、会費(5,000円)は当日徴収いたします。

母校の近況報告

平成19年度 市民工学専攻長・学科長 森川 英典

暁木会会員の皆様には、常日頃から多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本学自然科学系は、平成19年4月に大学院大学として改組され、土木系教室は工学研究科市民工学専攻という単独の新しい組織として生まれ変わりました。また都市安全研究センターは新たに組織された自然科学系先端融合研究環の下での組織と位置づけられました。教職員は、工学研究科もしくは自然科学系先端融合研究環の所属となりました。土木系教室として単独の博士コースを持つことになり、大きな飛躍になったものと考えております。また学部につきましても、従来の建設学科が市民工学科と建築学科として改組されました。このように、学部で「市民工学科」、大学院で「市民工学専攻」という日本で初めて「市民」を冠する学科が誕生しました。同時に、学部・修士・博士（B・M・D）一貫教育体制が整いました。また学部・修士・博士の新入生を無事迎えることができ、順調なスタートを切ることができました。

教室人事つきましては、昨年10月に東京工業大学から三木朋広准教授が着任されました。コンクリート構造が専門の新進気鋭の教員です。また本年2月末付けで長江剛志助教が退職され、電気通信大学情報系准教授に就任されました。本年3月末には、沖村孝教授と高田至郎教授が定年退職される予定です。2月上旬に両先生の最終講義を本学の六甲ホールで実施し、多数の方々にご出席を頂きました。また5月17日には退職記念祝賀会が開催される予定です。

市民工学専攻の教員組織は人間安全講座、環境共生講座の2講座体制で、各講座に6教育研究分野が設けられ、教員が配置されています。表1が本年4月時点での教員組織一覧です。また平成20年度の専攻長・学科長は喜多秀行教授、就職担当は澁谷啓教授、教学委員は富田安夫准教授です。

一方、学部教育につきましては、一昨年受審しましたJABEE（日本技術者教育認定機構）から最高の結果である「5年認定」を昨年5月に受けました。認定証は写真-1に示すとおりです。本年6月に文部科学大臣から指定を受け、官報に掲載される予定であり、卒業生は技術士第一次試験合格者と同じ扱いを受けることになります。またこれにより、米国、カナダ、英国、オーストラリア、韓国などワシントンアコード加盟国と教育プログラムの実質的同等性が認められることになりました。今後はJABEE認定プログラムとして、教育や環境の改善などPDCAサイクルを持続的に機能させる必要があり、受審の準備段階と同様に暁木会からのご協力をいただきたく密接な連携をお願い申し上げます。

今年度は、第6回、第7回の神戸大学・暁木会意見交換会を開催し、カリキュラムや新規科目「プロジェクトマネジメント」に関する有益な意見をいただきました。また昨年度から継続的に実施しているプロジェクトマネジメント関連の特別講義を本年度は6回実施させていただきました。多大なるご協力に感謝いたします。また、新たな試みとしてKTC学科・専攻別懇談会を昨年10月に実施し、教育に関しての有益なご意見と評価をいただきました。この結果は、平成20年度に予定されている大学認証評価、国立大学法人評価などの基礎資料とさせていただきます。

このように、暁木会の会員の皆様方からの多大なるご支援に基づいて市民工学専攻・市民工学科としての新たな展開を着実に軌道にのせつつある状況であります。土木系教室を代表して、重ねて御礼申し上げますとともに、今後の更なるご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

表1 平成20年4月時点での市民工学専攻・市民工学科教育研究体制

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	川谷充郎	三木朋広	野村泰稔*
	地盤安全工学	澁谷 啓	加藤正司	河井克之
	交通システム工学	喜多秀行	竹林幹雄	
	地盤防災工学	田中泰雄*	吉田信之*	
	地震減災工学		鋤田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎		神吉和夫
環境共生工学	環境流体工学	中山昭彦		
	水圏環境工学	道奥康治	宮本仁志	
	地圏環境工学		上西幸司*	鳥居宣之*
	広域環境工学	飯塚 敦*		斉藤雅彦*
	都市保全工学	森川英典	芥川真一	
	都市経営工学	朝倉康夫	富田安夫	井料隆雅

* 自然科学系先端研究融合環所屬



写真-1 JABEE 認定証

最近の学生事情（就職活動の移り変わり）

学生の就職活動は、ここ数年で大きく変化している。私が学生の頃は、修士1年生の年末頃に学生主体の就職先志望調査が行われ、4月に学内推薦をもらう時期には志望先が一極集中しないように学生間で調整していたものである。就職氷河期とも言われ、学内推薦枠も減少する時期ではあったが、文系の就職難と比べれば焦ることなく就職活動ができていた。ところが、最近では多くの会社が一般応募形式をとり、学内推薦と雖も入社試験の受験のお免除をもらうようなもので、内定のお免除とはほど遠いものとなってしまった。土木建設業界の情勢の変化もあり、新規採用が難しいというものもあるであろう。その一方で、大学が推薦する成績優秀な学生と企業が採りたい魅力的な学生とは相反するところがあるのだろうか。数年前までは、私立大学の学生に面接で負けないように学内で模擬面接を実施する試みも行われていた。最近では、学部3年生の夏休みに企業へインターンシップに行くように勧めたり、OBを呼んで企業説明会を実施している。

また、最近の学生は就職活動に忙しい。学部3年生や修士1年生の秋口から就職セミナーが始まり、年末年始は年賀状ではなく、エントリーシートの記入に追われ、年が明ければ各社の就職説明会、OB訪問に出かけることになる。学生は志望先を絞ればよいものの、「売り手」市場のために欲が出てくるのか、最終面接の段階まで数社を掛け持ちしている。一社でも数段階の面接が行われるため、数社を掛け持ちして応募すると、5月の連休前後までほぼ毎日のようにリクルートスーツを着て、大阪・東京に出かけることになる。年明けに学生の研究室に行ってみると、卒業研究をしている以外の学生がパソコンに向かっている。熱心に研究をしているのかとパソコンを覗いてみると、学生は会社情報をインターネットから入手しているのである。研究室の中の先輩・後輩も昔ほどのウェットな関係はなくなってきており、研究室を卒業した先輩が久々に大学を訪問し、入れ違いに研究室に入ってきた後輩と長年一緒に研究してきた後輩のように話しこむことは少ない。インターネット情報が少ない時期には、研究室の先輩などから人づてに企業の情報を得ていたことのほうが多かった。就職の情報収集も速さと量が重要になってくる一方で、ウェットな先輩・後輩関係の中で育まれる人間関係を知らずに社会に出て行っている。全ての学生が然りではないが、私が見る限りこのような状況はどこの研究室でも少なからずある。

学業の視点で見れば、昔以上に就職活動に割かれる時間が多く、授業や研究の時間が確実に減少している。大学院の授業は修士論文以外の授業科目は修士1年生でほぼ履修することになるが、これほど就職活動で欠席することになれば、事実上、後期の授業が成り立たなくなっている。社会の動向に応じて大学教育も対応すべきと教室でも検討が進められている。

それはそうと、今年度4月に入学した神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻の1期生が今まさに就職活動の真最中である。学生が「市民工学科」「市民工学専攻」の名札をつけて、就職面接を受けに行くのであるから、教員が学科PRをするよりも効果のあるわが社のトップ営業マンになっている。全国で一つしかない「市民工学」という学科名を聞かれて、学生はどのように答えているのだろうか。OBの皆さん、市民工学専攻、市民工学科所属の学生がOB訪問に来た折には、土木工学科や建設学科の学生が訪問したとき同様に温かく迎えていただきたいと、切に願っている。

（鋤田泰子）

現 役 最 前 線

新宿駅南口前での跨線橋架替え・人工地盤新設工事

(株)大林組新宿駅 JV 工事事務所 木下和哉 ㊦



写真-1 営業線直上に張出しての基礎杭施工



写真-2 タワークレーンでの駅改修工事



写真-3 旧橋撤去後の新橋架設状況

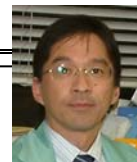
現在、私が携わる現場について紹介いたします。当現場は、国土交通省が事業主体で、JR 線（16 線）を跨ぐ部分の跨線橋架替え工事と人工地盤新設工事（いずれも J R 東日本に委託）を施工しています。新宿駅は 1 日の乗降客は約 320 万人という全国最大級のターミナルであり、これと南口で接する国道 20 号（甲州街道）新宿跨線橋は JR・私鉄を跨ぐ延長 271m の道路橋で、1 日約 75,000 台の自動車が通行しています。

しかし、大正 14 年（1925 年）に架設された同橋は既に 80 年以上供用され老朽化が進んでいることから旧橋を全面撤去し、新橋に架替えられます。架替え工事完了後は、道路幅員 30m が 50m（三径間連続鋼床版箱桁橋）となり今までの慢性的な混雑も解消されます。また一方で、南口駅前周辺の交通渋滞・乗り換え機能の不足を解消するために、線路上空を利用した人工地盤も新設中です。人工地盤構築後には駅施設、タクシー・バス乗降場等の交通施設を整備するというプロジェクトが計画されています。平成 12 年 3 月の着工以来約 7 年を経て昨年、JR 直上部分の跨線橋架替え工事が無事完了しました。

また、平成 18 年 1 月から人工地盤の新設工事にも着手しております。いずれの工事でも、営業線近接・直上工事であり、なおかつ、新設の基礎・下部工は線路内に構築されるため、JR 営業線の線路変更、線路使用停止が伴います。このためホーム新設、地下通路撤去・高架橋新設、といった駅構内の改修工事もあわせて施工しました。「営業線の列車運行を支障させない」、「車両・歩行者の現況幅員の確保する」という厳しい作業環境の下、国道迂回時期・線路切換時期等発注者が求める工程厳守のため、創意工夫し無事故で現在に至っています。今後も、工事はまだまだ続きますので、東京においでの際には、是非姿を変えつつある新宿にお立ち寄り下さい。

大深度地下使用法を適用した大容量送水管事業

神戸市水道局技術部計画課 浜村吉昭



神戸市水道局では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、平成7年7月に「神戸市水道施設耐震化基本計画」を策定し、災害に強い水道づくりに取り組んでいます。この基本計画における主要施策の1つ、「大容量送水管」の事業について紹介させていただきます。

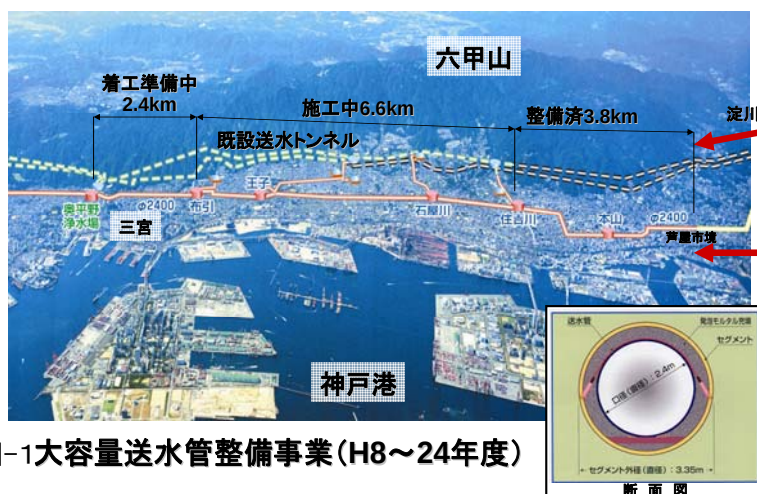


図-1 大容量送水管整備事業 (H8～24年度)

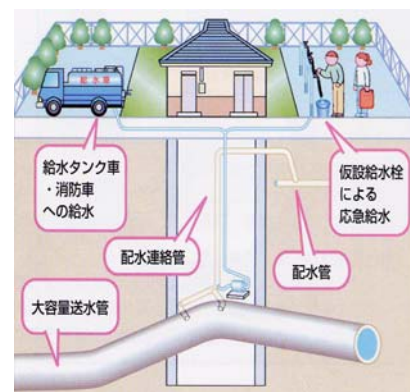


図-2 応急給水イメージ

大容量送水管は、六甲山麓を東西に通る2本の送水トンネル（山岳トンネル）とのリスク分散を図るため、新たに市街地の地下深くを通る耐震性の高い送水幹線（内径φ2,400mm）を整備するものです。既設トンネルの被災・事故時や更生工事の際にはバックアップとしての役割を果たし、また、送水が停止した場合には、管内に貯留された水を利用して、市街地の給水拠点において応急給水にも対応できます。

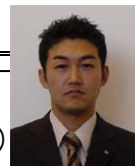
事業区間は芦屋市との市境から兵庫区の奥平野浄水場までの約12.8km。その西端に位置する奥平野工区（布引立坑～奥平野浄水場間2.4km）の一部（約270m）の区間について、平成13年4月に施行された「大深度地下の公共的使用に関する特別措置法（大深度地下使用法）」を適用して計画することにより、公道下を迂回するルートに比べ直線的なルートとなり、事業費の縮減、工期の短縮に加えて、施工性の向上を図ることが可能となりました。

「大深度地下使用法」は、通常利用されない大深度地下空間（例えば40m以深）において、公益性を有する事業の実施に限り、原則として事前に地上権設定等の補償を行うことなく私有地を使用することができる特別の手続きを定めたものです。平成19年6月19日、法適用第1号事業として認可庁である兵庫県知事の認可を受けました。前例のない審査でご尽力をいただきました国土交通省及び兵庫県県土整備部の関係者の方々に深く感謝いたします。

工事は順調で、昨年9月には住吉川立坑～布引立坑間約6.6kmのシールドトンネルが完成しました。11月7日には土木会の行事として見学会を、また、11月11日と12月2日の2回に渡り、市民を対象としたトンネルウォークのイベントを開催し、好評を得ました。まもなく、大深度地下使用法を適用した奥平野工区の工事に着手する予定です。見学会なども企画しますので、会員の皆様のご参加をお待ちしています。



写真-1 トンネルウォークのイベント



「閉鎖性水域の環境修復・保全」

復建調査設計(株)環境技術部水圏環境課 高橋俊之 (C98)

閉鎖性水域（瀬戸内海）の環境修復・保全に向けて、様々な提案を行っており、近年は「瀬戸内海環境修復計画（平成17年1月策定）」、「広島湾再生行動計画（平成19年3月策定）」の計画手法の提案などを行ってきました。瀬戸内海環境修復計画は、具体的な数値目標を提示するとともに、省庁間が連携した環境修復の手法を提案したことが大きな成果となりました。また、広島湾再生行動計画は、全国海の再生プロジェクトの一環として、地方における先駆的な取り組みであることが特徴です。策定した計画の広報活動支援として、シンポジウムやパンフレットの作成なども行っています。

これらの計画に関連して、より具体的な水環境の改善対策を実施していくに当たっては、水質シミュレーションなどを用いて、どこでどんな対策をとれば良いか、具体的な検討手法も提案するとともに、干潟や藻場などの設計手法の提案も行っています。

こうした取り組みの中で、計画推進のための広報活動は非常に重要であり、今後も継続して取り組む必要があると感じております。

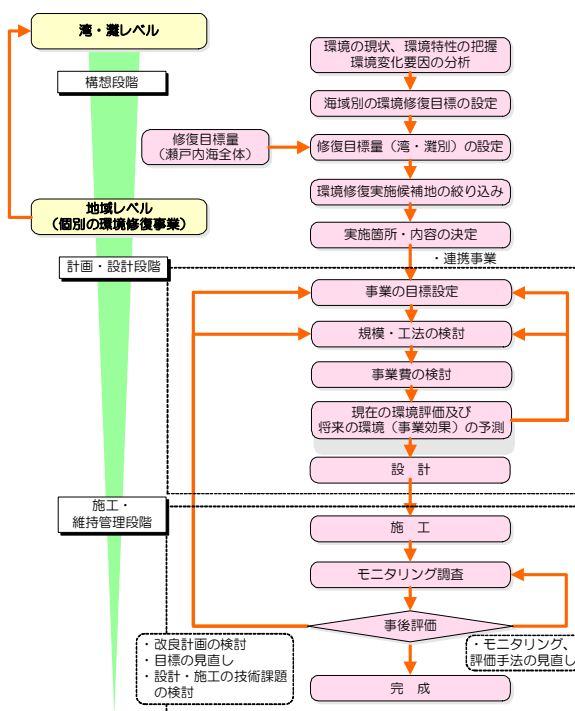


図-1 瀬戸内海環境修復計画策定フロー



写真-1 シンポジウム開催状況

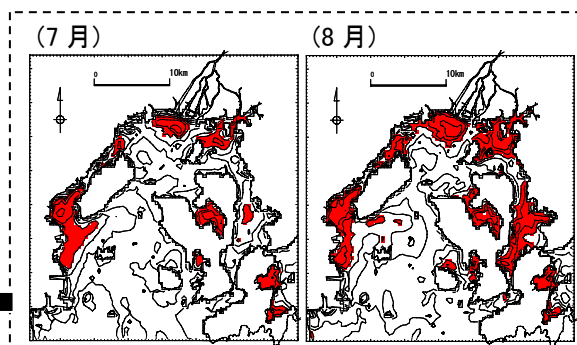


図-3 シミュレーション結果(広島湾の貧酸素水塊)

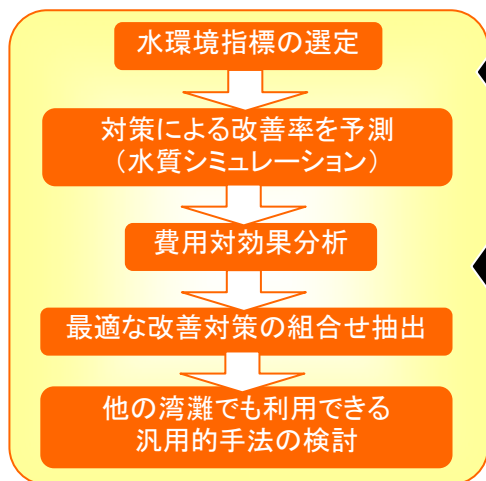


図-2 水環境改善対策の検討フロー

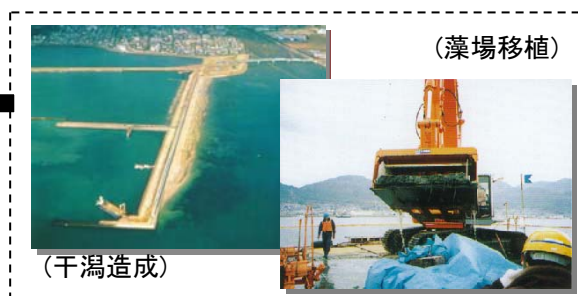


写真-2 干潟、藻場の保全・再生

スタートライン（新顔紹介）

誇れる構造物を作りたい

（株）奥村組石屋川シールドJV工事所 山口 将(C05)

私は、株式会社奥村組石屋川シールドJV工事所で土木係として働いています。当工事は、神戸市水道局が進めている大容量送水管整備工事の延伸工事を行うものです(工事の詳細は、別紙で神戸市の浜村主幹が説明されています)。

最初に現場での勤務に就いた際、下請けの人に何を指示したら良いのか分からず、工具の名前も分からず、分からないことだらけで、ただ現場に突っ立っているだけと、施工管理者として非常に情けない思いをしていました。また、学生時代とは大きく生活環境が変わったこともあり、つらいと感じる日々を送っていました。しかし徐々に仕事にも慣れ、現場の方々のご支援もあり、少しでも工事に役に立てていると感じることのできる瞬間もあります。

私の普段の業務内容は、シールド路線の測量業務・材料の入荷検収・工事写真の撮影などが挙げられます。特にシールド路線の測量業務には時間を割いていました。この測量で間違えてしまうとシールドトンネルが計画とは異なる方向に進んでしまい、この工事自体が成り立たなくなってしまう。そのような責任ある業務を任せただけに非常にやりがいを感じていました。当シールド掘削工事は、昨年9月末に無事到達を迎えることができましたが、到達後の誤差はわずか数mm程度と僅かなものでした。到達する瞬間に立ち会えたことをうれしく思うと同時に、私も測量業務などで微力ながら役に立つことができたことを誇りに思っています。

建設業、特にゼネコンという会社で働くようになり約1年が経過しようとしています。建設業界の不況というものを直に感じるようになってきました。しかし、私に出来ることは、少しでも良い構造物が完成するよう努力することだと考えています。建設業とは、人々の生活を大きく支えている業界です。道路・水道・鉄道・ダムなど人々の生活に無くてはならない物だと思います。安直な考えかもしれませんが、良い構造物・安全な構造物を作り続けていくことにより、きっとこの業界もまた明るい兆しが見えてくると信じています。建設業に携わっている方、またこれから携わる方、皆でより良い構造物が出来るよう、がんばっていきましょう。



コンサルタントはサービス職

（株）阪神コンサルタンツ奈良支店 岡本弘史(C07)

今年度から（株）阪神コンサルタンツに勤めさせていただいております、岡本弘史と申します。

私は渋谷・加藤・河合先生方の研究室でお世話になり、土質関係の職業に興味を持ちました。また、モノづくりに関わりのあることがしたいという思いもあり、設計・土質調査の業務を行うコンサルタントに就職することにいたしました。

現在私は阪神コンサルタンツの大阪支店道路・構造部門で設計業務を行っております。主な業務として、道路の設計をさせていただいております。恥ずかしながら、自分が今の職に就くまでは道路の設計といわれても今一つ内容が見えておりませんでした。私の周囲にいる他業種の友人・知人と話をしてみても、「道路設計」というものはどんな仕事か分からない、といった意見を耳にすることがあります。私なりに今の仕事の内容を簡単に言い表すと、「様々な制約等を満たし、より快適に利用ができる道路を造るための提案を



させていただく仕事」となります。ある上司の方に「コンサルタントは専門職であると同時にサービス職である」と言われたことが私にとっては大きな刺激となりました。様々な要求を満たすような提案をし、より良いものを造るための手助けをする仕事、またその提案には結果が一つではなく、正に十人十色の提案があるといったところにこの仕事の魅力を感じます。

初めのうちは仕事の流れも全く分からず右も左も分からないままで不安でしたが、上司・先輩方の指導の下、少しずつではありますが建設コンサルタントの業務にも慣れてきました。自分がやりたかったモノづくりに携わる仕事、さらに誰もが利用する道路という大きなものに関わる仕事をするのができ、とても充実した日々を過ごすことができております。現在1件ではありますが担当業務をもつことができ、この業務を通して自分が出来ることの幅を広げていけるよう尽力していきたいと考えております。

まだ社会人の一員となって一年足らずで未熟な点が目立ちますが、今までの生活とは全く違った刺激から学ぶことが多数あり、一社会人として、また土木業界に携わる一技術者として成長していきたいと考えております。今の私では土木業界の発展のためになどという大きなことは言えませんが、今の自分の出来ること、そして経験を重ねてさらにその出来ることが少しでも増え続けるように努力し、良い結果を残せるような技術者を目指していきたいと思っております。

前向きな姿勢を心がける

神戸市建設局道路部工務課 谷 初(CO7)

昨年、期待と不安が入り交じる中で迎えた社会人になって、早1年が経ちました。毎日、小さいながら様々なことを経験し、刺激的な日々を過ごしております。1年目としてまだまだ悪戦苦闘しておりますが、この度少しばかり誌面を頂くことになり、簡単ではありますが現況報告をさせて頂きたく存じます。



【仕事の様子】私は、神戸市建設局道路部工務課工務第1係に

おいて、本市における道路事業の予算執行管理の補助、国への補助申請の補助、工事積算基準の改定、各種調査物対応などを担当しております。大学時代の授業内容等とは全く異なり、はじめてのことばかりですし、仕事をしながら勉強になることばかりです。しかし、仕事の仕方や姿勢など、見習いたいと思う方が周囲にたくさんいらっしゃり、おかげさまで充実した日々を過ごしております。

【学生から社会人へ】周りの人が同年代ばかりだった学生時代と違い、色々な年齢の方々と接する機会が多い、というのが社会人としての最初の印象でした。人生の先輩でもある職場の方と多くの時間を過ごすことで、仕事面はもちろん、人間的な面でも色々な状況を見せて頂き、学生時とはまた違う、非常にいい勉強をさせて頂いています。

【仕事に取り組む姿勢】仕事をする上で、体力はもちろんのこと、精神的に前向きな姿勢を常に心がけたいと強く思うようになりました。同じ仕事をするのでも、一時的な興味の有無だけに抑らず、目の前の仕事に常に誠意を持って、前向きに取り組んでいきたいと考えています。また、自分と異なる視点からの意見を聞く姿勢と機会を持つことが重要だと感じています。土木関連はもちろん他業種や他の知人など、幅広い交友関係を意識していきたいと思っております。

【暁木会の諸先輩方】職場上、暁木会会員の皆様とも接する機会も多く、質問や相談を快く受け入れて下さるなど、日頃から大変お世話になっております。特に入庁当時、全く知らない方ばかりの庁内において、お話させて頂いたことのある先輩方と偶然お会いした時、非常にうれしかったことを覚えています。また、職場外にも土木をはじめとする様々な分野でたくさんの先輩が活躍されていると伺っております。心強さを感じるとともに、未熟ながらも努力していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

俺が作る第二東名

(株)大林組東名穴原工事事務所 釘宮晃一(CO5)

私が会社に入って感じたことは、大学で勉強したことが全く通用しないということでした。まず、最初の仕事は、着工前の現場だったので、施工計画書の作成を手伝うことでしたが、学生時代に、構造物を造るということを経験していないので、過去に施工経験が全く無く、「どのように造るのか」というノウハウがありませんでした。だから、施工計画書を作るにしても、先輩に言われるままに CAD 図面を修正すること、また、隣の現場（他業者さん）の計画書をお借りし、それを真似て、私のいる現場の計画書を作っていました。だから、今後、経験を重ねることが自分の将来を大きく左右するということを感じました。



また、現場に着工し、実際に施工していくことになると、計画書どおりに施工することは難しいこともあり、「こういう理由でこのように施工しました。」と、施工管理員さんに事後報告をすると、ひとつ前の工程に戻して検査を受けなおす羽目になるという失敗をしてしまいました。それからは、何かあるたびに、施工管理委員さんに相談し、新しい計画書を提出することになり、なかなか現場が進まずとても苦労しています。もっと、うまくコミュニケーションをとり、円滑に現場を勧められるようになりたいと思っています。

現場の雰囲気は、新入社員には珍しく、私はすでに3つの現場事務所を経験していますが、上の人、特に課長クラスの人の雰囲気とその事務所の雰囲気が決まっている感じがしました。両極端な例をなのかもしれませんが、歌を歌ったり、冗談を言ったりしながら、仕事をする人もいれば、定時を過ぎても仕事のこと以外是一言もしやべらずに仕事をする人もいて、楽しい現場もあれば、息苦しく感じる現場もあります。

私としては、前者のほうの方が合っていて、仕事も楽しくやれていたのですが、後者のほうでは、静か過ぎてキーボードをたたく音やプリンターの動作音が聞こえるだけで、精神的にかなりしんどいです。しかし、現場に出ていると、日々、構造物の形が見えてくるので、とてもやりがいを感じています。

最後に、私が配属されている第二東名が完成しても、東名自体がそれほど渋滞している感じがしないので、どれほどの渋滞緩和に影響があるのかわかりませんが、これを造ることで少しでも多くの人の役に立てればと思います。

暁木一水会例会について

暁木一水会例会（講演会、見学会等）は、平成19年5月の例会より暁木会全体の活動として実施しています。暁木会会員の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

- 開催日 原則2月、5月、8月、11月の第1水曜日
ただし、5月の例会はゴールデンウィークを外して開催します。

平成20年度の予定

回数	開催日	講演	講師
105	H20.5.14	公共団体から主要施策の説明	未定
106	H20.8.6	講演会	一般の講師
107	H20.11.5	見学会	
108	H21.2.4	講演会	母校の先生

- 場所 楠公会館（湊川神社内） TEL 078-371-0005

- 会費 4,000円

- 案内 各回、開催日の20日程度前に暁木会ホームページの行事予定に掲載します。

暁木会年会費納入のお願い

平成 15 年度から導入いたしました年会費につきましては、2 月末現在、名の会員各位にご理解とご協力をいただきました。本誌をもってお礼を申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには未だ十分ではありません。現在、クラス幹事や各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費納入の手続きが未了の会員各位には、引き続きご理解とご協力お願い致します。

なお、手続き等に関する問合せは事務局までお願い致します。

暁木会事務局；会計幹事 伊藤裕文 ㊟

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県県土整備部技術企画課

TEL：078-362-9248、FAX：078-362-4433 E-mail：hirofumi_itou@pref.hyogo.jp

※ 年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者（三菱UFJニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年 1 回の自動引落しの制度を採用いたしております。

これは、会費収入の安定化や、集金コストの縮減を目的として採用したのですが、この制度について、各方面から色々な意見を頂戴しています。改善すべきところは改善してまいりたいと思いますので、会員の皆様方のご意見を、事務局までお願いいたします。

平成 20 年度の名簿発行について

今年は、暁木会会員名簿の全面改訂版の発行年になっております。事務局では、平成 20 年 6 月頃を目処に、会員各位宛に名簿記載内容の確認書を送付させて頂きたいと考えております。

なお、会員名簿改訂版は、会費納入会員にのみ発送することになっています。会費納入の手続きが未了の会員の方につきましては、早急に手続きをしていただきますようお願い致しますとともに、手続き等に関するお問い合わせは上記事務局までお願い致します

おわりに

昭和 3 2 年卒業の土木 5 回生から 100,000 円、昭和 4 7 年卒業の 2 0 回生から 32,842 円、昭和 5 2 年卒業の 2 5 回生から 20,000 円の寄付を頂きました。本当に有り難うございました。有効に活用させて頂きます。

最後になりましたが、年度末のお忙しい中、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。下記、連絡先まで、ご意見をお寄せください。



次回は昔の面影を残す学食を紹介します

発行者：暁木会

連絡先：会計幹事 伊藤裕文 ㊟

兵庫県県土整備部技術企画課

TEL：078-362-9248 FAX：078-362-4433

E-mail：info@gyoubokukai.jp

hirofumi_itou@pref.hyogo.jp

注）平成 20 年 4 月 1 日以降は hirofumi_itou@pref.hyogo.lg.jp に移行します

http://www.gyoubokukai.jp